

1. 一発で終わらないグズグズの地震

地震があると、必ず震度、震源地、震源の深さ、規模、津波の有無といったことが報道されます。そして、この後しばらく注意するようにならされます。これを聞くと、なんとなく落ち着かないのですが、この後に来る地震はどの程度なのか、今よりも小さいのだろうか、あるいはとんでもないようなものだったらどうしよう、いつ来るのだろうかという疑心暗鬼の心持ちになってしまいます。

そこで、内閣府は 2022.12.16 から「北海道・三陸沖後発地震注意情報」で日本海溝並びに千島海溝にかかわる地震の影響下にある 182 市町村に注意を促すことにしています。注意するということは備えるようにということで、約 1 週間にわたって呼びかけるもので、日ごろの備えの再確認、避難場所の点検をすることになります。

対象となる地震は震度 6 弱以上、津波の高さ 3m 以上ということで、相当に激しく揺れるという感じですが。確かに、2011 年の東日本大震災の時を思い出すと、前震のあと本震があつてその後しばらく続いたことで、この後どうなるのかが心配になったものです。過去 100 年の世界各地で起きた M7 以上の地震で、1 週間内に大きな後発地震が発生する可能性は 100 回に 1 回ということで、それほどでもないような気はしますが、心配は消えません。

いずれにしても、要配慮者などは移動にも時間がかかるし、人手も不足しているしということで備えについては、自主防災組織や市町村は当然としても地域ごとに真剣に実践的な備えをするというか、計画を見直すことも必要になると思います。

ところで、この後発地震には、余震、余効、波及、転移、新生など多くのパターンがあるので、前の方を見ていたら後ろからというようなこともあるのかもしれませんが。注意情報が出たらどのような行動をすべきかは、普段から関心を持っておくことが大切なことになります。できれば、家の中に行動のチェックリストを貼って眺めておくのもよいかもしれません。下に例を挙げてみましたが、まずは普段からできるもので十分です。

- ハザードマップをもう一度確認
- 避難経路や避難場所の確認
- 家族との連絡手段の確保
- 食料、飲料水、簡易トイレ、懐中電灯
- 防寒具の準備
- 携帯電話の音量を上げておく
- 行政無線やラジオでの情報収集
- 行動可能な服装で就寝
- 子供や要配慮者への配り
- 家の中で安全なところを確保
- 出入り口の確保、モノの整理
- 戸締りと電気と火気の始末